

第 6 9 回長久手市地域公共交通会議 議事要旨

議 事 概 要	
会議の名称	第 6 9 回長久手市地域公共交通会議
開催日時	令和 7 年 3 月 1 0 日（月） 午前 1 0 時～午前 1 1 時 3 0 分
開催場所	長久手市役所西庁舎 3 階研修室
出席者氏名 （敬称略）	1 7 名中 1 4 名出席（五十音順） 会長 樋口 恵一 委員 岩井 貞典 委員 久米 裕之 委員 加藤 純丈（代理出席） 委員 川本 満男 委員 国仲 美早（公募委員） 委員 古賀 めぐみ（公募委員） 委員 児玉 朋孝 委員 小林 裕之 委員 石屋 義道（代理出席） 委員 日比野 裕行 委員 宮川 高彰（代理出席） 委員 門前 健 委員 若杉 将成 説明員 （N－バス事業者） 安心安全課課長 久保田 直也 同課長補佐 山際 裕行 同係長 加藤 優作 （福祉有償運送） 福祉政策課係長 武田 憲明 （地域の移動支援） 地域共生推進課課長補佐 熊谷 美恵 事務局 企画政策課課長 山本 一裕 同係長 富田 昌樹 同主事 林 陽奈子
欠席者氏名 （敬称略）	委員 佐分利 麻美 委員 牧 雅美 委員 吉田 浩美
傍聴者人数	2 人
会議の公開・非公開	公開

審議の概要	1 あいさつ 事務局あいさつ 2 議題 (1) 県道瀬戸大府東海線工事に伴う Nーバスのルート変更等について 3 報告事項 (1) デマンド型交通実証実験の結果について (2) ながくて公共交通フェスタの結果について (3) 市内公共交通の利用者実績について (リニモ・名鉄バス・Nーバス)
-------	--

1 あいさつ

事務局より委員の出欠について説明

2 議題

(1) 県道瀬戸大府東海線工事に伴う Nーバスのルート変更等について

(資料 1 に基づき安心安全課より説明)

委員

利用者への周知はどのように行われるのか教えてほしい。

説明員（安心安全課）

利用者への周知は、市の広報誌やホームページ、バスの車内やバス停留所での案内などを検討している。

会長

今回提案されたステップ 2 は承認するということで問題ないだろうか。

委員

異議なし

3 報告事項

(1) デマンド型交通実証実験の結果について

(資料 2、資料 2 補足に基づき安心安全課より説明)

委員

困窮世帯の支援に関わっているが、限られた予算の中でどこを優先的に支援するかを考えると、必要性の高い方を優先的に支援するべきと考えられる。

その場合、仕事をされている方は収入があることから、支援の優先度が少し下がると考えられる。夜遅くに利用したい、仕事後に利用したいといった需要に関しては、収入がある方は可能な限り民間のタクシーを利用してもらう方が良い。

そのため、次の実証実験ではデマンドの利用時間は延長しなくても良いのではないか。

説明員（安心安全課）

デマンド交通は Nーバス東部線に代わる新たな移動手段としての位置付けもあるため、今回の実験では同じ終了時間に合わせる形で提案したいと考えている。

会長

今回の実証実験の際にタクシー利用を促す声かけ等は行っていたのだろうか。

説明員（安心安全課）

今回は声かけや案内等はしなかった。

資料 2 の 1 2 ～ 1 4 ページにデマンド交通を導入した場合の行動変容について示されており、その中で興味深い点として、デマンド交通を導入するとタクシーの利用を考える人が多少増える傾向が見られる。

1 回目の実験では、運行時間が 1 8 時半までだったため、朝の通勤・通学では使えても、帰宅時間には合わないという声があった。これがタクシー利用につながっているかは不明だが、2 回目の実験では、運行時間を 2 0 時 3 0 分まで延長する予定であり、その結果、タクシー利用につながるかどうかを結果から分析する必要があると考えられる。

また、1 回目の実験では 2 ヶ月間で 3 1 6 人が利用しており、公共交通の利用を考える人や、6 5 歳以上でタクシーの利用を検討する人が少なからず増えていることが分かった。

この点について、委員からの意見ともつながる部分があると思い、事務局としても期待をしている。

会長

事務局としては、今回の実験で17時半以降に不成立が発生したという結果になった点、また現在のNーバスの運行時間を考慮し、交通サービスの水準としてNーバスと同等の終了時間を目指したいと考えていることから運行時間の延長を検討している。

一方で、委員の意見のように利用者の要望に応じて運行時間を延ばしていくと、例として「飲み会に間に合わないから」といったように本来の趣旨とは異なる利用が増加する恐れもある。

委員の指摘も踏まえ、住民の要望に全面的に応えるのではなく、タクシー利用を促すなど全体のバランスを考えて調整していくことが望ましいと考えられる。

委員

利用促進キャンペーンの「昼間限定」の時間帯は何時からを想定しているのか。また、愛知医大は対象に入るのだろうか。

説明員（安心安全課）

資料に示した利用が少なかった時間帯を踏まえ、現時点では10時から16時を想定しているが、この点については関係機関とも調整しながら進めていきたいと考えている。

愛知医大は昼間の時間帯のみに限定することや、別枠の料金設定とすることを検討している。

全体のバランスや意見を伺いながらまとめていきたい。

会長

先週、福祉有償運送運営協議会がありその中でデマンド実験について報告があった。

その際に挙げた意見や議論について、報告をお願いしたい。

委員

デマンド交通の結果を報告した際に出た意見について、まず停留所に関する意見があった。

今回の実験では、市が停留所の場所を決定したが、土地の高低差に考慮した設置やドアツードアまでではないが、目的地と自宅に近い位置にあれば、といった声が出ていた。

また、デマンド交通の特性上、Nーバスが通る道路からさらにもう一本中の道に入ることによって利用率が上がるのではないか、という意見も出ていた。

次に、三ヶ峯線についての意見として、次回の実証実験には三ヶ峯線が含まれていないが、この路線を利用して福祉施設に通っている障害者の方がいるという話があった。

こうした方々は、決まった運行時間を基に日々の生活習慣を作っており、運行時間の変更は大きな影響が出る可能性がある。

そのため、「デマンド交通を導入すること自体は良いが、申し込みがきちんとできるのか」「今後、我々障害のある施設側の意見を聞いてもらえるのか」といった心配の声が上がっている。

以上が会議で出た主な意見となる。

会長

障害のある方の特性や特徴について、施設の方に話を聞いてもらうことも重要となる。意見交換をしながら、より多くの人を使いやすい仕組みに改善できると良い。

三ヶ峯エリアを対象とするかについては、是非は別として、そうした状況もあるという点を把握するべきと考えられる。

資料18ページ、19ページにあるように、来年度も引き続き3か月間の実証実験を行い、時間延長といった今年度の実験結果を踏まえた調整をしながら検討を進めていく予定となる。

運行時間の拡大については現状のNーバスのサービスレベルに合わせた形で実験を行う方針となるが、予約ができない状況がどのように解消されるかを確認することが重要なポイントとなる。

停留所の乗降ポイントについては、東部地区内で検討を進める予定になるが、地域の意見も取り入れながら、どこに乗降ポイントを設けるかを考えていくことが望ましい。

三ヶ峯エリアでの運行については、来年度は準備段階として進める予定となるが、このエリアには東小学校への通学児童や三ヶ峯ニュータウン内での移動支援の存在も考慮すべき点となる。

また、公園西のエリアには名商大のスクールバスが運行しており、交通特性や地域の状況を踏まえながら総合的に検討を進めていくため、次回は三ヶ峯エリアを対象外とした実証実験を行う方針となる。

昼間限定の実証実験については予約が少ない時間帯に限定して、西部地域全体ではなく、特定のエリアで利用促進キャンペーンを実施する方向で検討を進める形となる。

以上が今回の実証実験を踏まえた次年度へ向けた総括となるが、あくまで現時点での案であり、今後、地域との調整が必要になると思われるが、一旦この方向性で検討を進めていくということとなる。

最後の23ページについて、今後の計画として、令和9年4月にNーバスの再編を検討している。

懸念点として、令和6年度、7年度にデマンド型の実証実験を行った後、令和9年度から再編する場合、令和8年度が空いてしまう形となり実証実験を終えて一度Nーバスのみの運行に戻し、その後令和9年度にデマンド型を含めた再編となると、地域の方々が混乱する可能性があるが、事務局ではどのように考えているのだろうか。

説明員（安心安全課）

事務局としても、令和8年度が空いてしまうことについては課題として認識している。

そのため、令和8年度では地域の公共交通について考える機会としたい。ソフト面での広報戦略が中心にはなるが、例年よりも頻度を上げて地域や関係各所、施設など、様々な方と意見を交わせるタイミングを設けたいと考えている。

合わせて、令和9年4月の再編時には、Nーバスの補助交通としての位置付けを踏まえ、基幹交通と連携しながら市民の移動手段として活用できるような形を目指したい。

会長

事務局としても、令和8年度は機運を高める機会として位置付けたいとのこと、具体的な移動手段が見える形になると良い。

また、公園西駅付近にスーパーが開店し、市東部での日用品の買い物環境が整った状況になる。例えばイケアのカフェやスペースを活用し、市東部の住民もデマンド交通利用により遊びに来られるような取り組みを進めることも、デマンド交通の利用促進としてひとつの方法ではないかと考えられる。そうした需要の掘り起こしにも注力しながら、事業者との調整を進めていけると良い。

委員より他に意見はあるだろうか。

委員

意見なし

(2) ながくて公共交通フェスタの結果について

（資料3に基づき事務局より説明）

委員

イベントはとても賑わっており、親子以外に大人の来場者も多く、様々な層に楽しんでもらえるものとなった。そういった方々に向け、SNSを活用した発信などをお願いできれば、今後さらに活動が広がっていくのではないかと感じている。

また、実施する催しも多くの意見が出たが、現在以上に規模を大きくするには応援隊のメンバーが足りないため、今後メンバーが増えれば、将来的にイベント規模の拡大も可能かもしれないが、まずは今の規模で回数を重ねていければと思っている。

報告のとおり一部の催しの待ち時間が長かったため、整理券の導入なども今後検討する必要があると感じた。天候にも恵まれたため、雨天時でも対応できるような仕組みを考えていけると良い。

会長

公共交通応援隊の募集チラシの配布はあったらどうか。

事務局（企画政策課）

市からの配布物として、デマンドの結果レポート、公共交通応援隊のメンバー募集チラシ、応援隊が作成した広報誌をセットにして200部作製し、各世帯に1部ずつ配布した。

その結果、新規で1人応援隊への応募があった。

委員

リニモでは元々子ども向けに制服試着体験を実施していたが、今回は新たに顔出しパネルを作成した。

これが予想以上に好評であつたため、今後もこうした取り組みに協力し、リニモの周知に努めていきたい。

委員

乗車体験等、好評でありイベントに参加して良かったと感じている。

一方で、最後の方では時間が足りなくなってしまう、十分な体験の提供が難しくなった点が課題と感じている。時間制限を設けるのは難しい部分もあるが、より多くの方が体験できるよう今後も工夫していきたい。

委員

とても賑わっており、当初は運転手1名で対応だったが、途中から2名体制に変更した。

次回はその点を踏まえ、よりスムーズに対応できるよう準備したい。

会長

来場者の年齢層を見ると40代未満が多かったことから、その親世代への公共交通に関する情報提供も重要ではないかと考えられる。

例として、シルバーパスの案内やタクシーの割引情報など情報発信ができれば、子ども向けの取り組みとあわせて、親世代にも関心を持ってもらえるのではないかと、来年の検討課題として議論できればと思う。

(3) 市内公共交通の利用実績について

（資料4-1、4-2、4-3に基づき各交通事業者より説明）

会長

Nーバスや名鉄バスは依然としてコロナ前の水準には戻っていない状況となる。

令和9年度のバス再編に向けて、バス全体の利用を高めるよう市内のバス路線の効率化や利便性向上に向けて、関係者と連携しながら検討を進めていければ良い。

(4) ながくて移動手段ガイドの公表について

(追加資料に基づき事務局より説明)

委員

買い物リハビリ制度の掲載はあるだろうか。

事務局（企画政策課）

買い物リハビリについては、制度自体を廃止する方向になっているため、今回の資料には掲載していない。

委員

福祉有償運送について、要支援の方は利用可能だろうか。

説明員（福祉政策課）

福祉有償運送については、基本的に1人で公共交通を利用できない方が対象であり、医師や介護の専門家によってその必要性が判断された方、要介護や障害を持っている方が主な利用対象になる。

単に「要介護だから」「要支援だから」という区分のみで判断するものではない。

会長

仕組み上は要支援の方も対象になるのか。

説明員（福祉政策課）

利用可能となる。

委員

チラシラックにこの資料を置く際は半分に折って入れる形になると思われる。

その際、タイトルのある右側には福祉有償運送など限られた利用者向けの案内が表面に来る形となるため、多くの方に関係する左側の情報が表面になるようなレイアウトのほうが、自分にも関係があると思い手に取ってもらいやすくなるのではないだろうか。

事務局（企画政策課）

指摘のとおりレイアウトに関しては調整を行いたい。

委員

裏面の電話番号が少し見づらいように感じる。つばめタクシーや名鉄バスなどが詰まって見えるので、高齢の方には少し見づらいかもしれない。

事務局（企画政策課）

全角にするなどして見やすくなるように改善したい。

委員

バスの乗り方について、バス料金の支払い方法が乗車時に支払うのか、整理券を取って後で支払うのかなど、乗り慣れていない方はハードルとを感じるため、分かりやすく案内を入れられないだろうか。

事務局（企画政策課）

指摘のとおり重要な情報であるため、案内の方法を検討していきたい。

会長

いただいたご意見を踏まえつつ、交通事業者とも調整を進めていきたい。

取り組みを進める中で、公共交通の促進に向けた施策が充実してきていると実感している。

4 意見交換

特になし

5 閉会

事務局（企画政策課）

今年度の会議は今回が最終となる。2年間の委員職の任期も今月末までとなるため、委員に置かれては、様々なご意見をいただき、感謝を申し上げたい。

来年度の会議は5月下旬から6月上旬頃を予定しているため、引き続きよろしくお願いしたい。

以上